【高等部】

ホームルーム活動（人権）学習指導案

１　主題　公正な採用選考について考える

２　主題設定の理由（省略）

３　ねらい

就職選考の内容についての理解を深めるとともに，就職活動における「就職差別につながるとされる 14 項目」に基づいた公正な選考について学習を深め，「14 項目」を含めた差別につながる質問や不当な選考を見抜く力を養い，就職差別に直面した際に適切に対応できる力を身に付けることができる。

４　指導計画

（１）これまでの学習

・自分のアピールポイントについて・・・・・・・・・・・・・・・　・・・・・・・・２時間

・「就職差別につながるとされる 14 項目」について・・・・・・・・・・・・・・・２時間

（２）現在の学習

・公正な採用選考について考える・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

（３）これからの学習

・「障害者差別解消法」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２時間

５　本時の学習

（１）目標

・「就職差別につながるとされる 14 項目」について理解し，差別につながる質問に適切に対処できる力を身に付けることができる。

・差別解消に向けて自ら考えて行動していこうとする意欲をもつことができる。

（２）普遍的な学習のテーマ・・・法の下の平等，個人の尊重

個別人権課題名・・・・・・同和問題，障がい者

（３）展開

展開	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (10 分)	１　前時の学習内容を振り返り，「就職差別につながるとされる 14 項目」について確認する。	１　口頭で項目を挙げさせて，「就職差別につながるとされる 14 項目」について振り返る。	１　差別につながる質問項目について理解することができる。 （知識的側面）
展開 (35 分)	適正な採用選考を考えよう。		
	２　面接での質問例から，「14 項目」に抵触する質問を選び，その質問についてどのように感じたか発表する。	２　差別につながる質問を見抜く必要性と，そのような質問に答えることが，差別を容認してしまうことになることを伝える。点字での質問用紙を配	２　本人の能力や適性に関係のない質問は，差別につながることが理解で

		付し，「14 項目」に抵触すると思われる質問番号にシールを貼るよう促す。	きる。（知識的側面）
	３　面接試験における質問について考える。 ・面接試験において，自分自身のアピールしたいことを発表する。	３　伝えたいことを，わかりやすく説明することを意識するよう促す。	３　自分自身のアピールポイントを，わかりやすく伝えることができる。 （技能的側面）
	４　適正な採用選考のためにとるべき言動について考える。 ・２つの不適切な質問について，不適切な理由を記入し，その内容を基に考えたことを発表する。 ・不適切な質問に気付いたときの回答（対処）方法を考える。 ・公正な採用を実現するために，自分にできることを考え，発表する。	４－１　自分が伝えたいこととの違いなど，生徒の感じる違和感等を大切にする。 ４－２　自分の人権だけでなく，他の人々の人権も守るという視点に気付かせる。 ４－３　自分が行動するという意識がもてるよう，実際に行動できるかどうか自己分析させる。	４－１　就職差別につながるおそれのある事項について，不適切である根拠を理解できる。 （知識的側面） ４－２　面接時の質問への対処方法について考える。 （知識的側面） ４－３　自分自身の問題として考えることができる。 （価値的・態度的側面）
まとめ （５分）	５　本時を振り返り，適正な採用選考への取組を通して学んだことをまとめる。	５　採用選考時に限らず，差別や偏見など不合理な場面に出合ったときの生き方・考え方につなげる。	５　差別解消に向けて自ら考えて行動していこうとする意欲をもつことができる。 （価値的・態度的側面）

※波線部分は学習活動全体における配慮事項